

2021年度 卒業生答辞 小山 幸保

草木もようやく冬の眠りから覚め、景色に春の訪れを感じる季節となりました。

本日をおもちまして、私たち卒業生一同は、神奈川大学を卒業します。

この学生生活の締めくくりとなる良き日に、私たちのためにこのように盛大な卒業式を挙げてくださり、心より感謝申し上げます。

またお忙しい中、ご列席くださいました先生方、御来賓の皆様並びに配信をご観くださっている皆様に厚くお礼申し上げます。

4年前の4月、私は大学生活への期待と新たな環境に対する少しの不安を胸に、神奈川大学に入学しました。厳しい状況が続く中、入学式を行ったこの場所で、卒業式を迎えることができたことを心より嬉しく思います。

振り返ると大学での4年間では、何ものにも代え難い経験を数え切れないほどしました。

1年次は、高校までの学習方法や学習内容との差に戸惑いや不安を覚えました。しかしながら友人との助け合いや、先生方や先輩のご助力により、大学生として学び、成長することができました。中でも時間割を組む際のアドバイスとして先生からいただいた、1日に受講する科目は予習や復習を行う時間を考慮した数が良いという言葉のおかげで、無理なく計画的に勉学に励むことができました。

2年次には、関心がある分野の研究室へ足を運び、ゼミナールに積極的に参加し、自身の興味や関心について理解を深めました。ここで得たものは専門性が高い内容を学ぶための足がかりと、様々な人との繋がりでした。講義を受けたことがない先生や先輩とお話しするきっかけとなり、交流の輪が広がりました。また共通教養の講義では、他学部の友人ができました。知識の方向性が異なる相手との交流は、自身の見聞を広める良い機会となりました。

3年次は研究室に配属されると同時に、全科目がオンラインとなり、授業形態が一変しました。前例のない事態に初めは戸惑いましたが、その時その時の最善を考えながら手探りで行う授業は、私たちの適応能力を育みました。

そしてこの2年間は講義だけではなく、卒業論文の審査会や学会、企業説明会など多くのことがオンラインでの実施となり、事前に得られる情報が少なく困惑する場面もありました。特に3年次に先輩の卒業論文の審査会を運営した際は、発表者の音声と経過時間を知らせるベルが重なると、発表が聞こえなくなるというオンライン特有の問題が起きました。この問題を解決するために、研究室の仲間と意見を出し合い、画面に表示するタイマーの色を変更できるようにすることで、経過時間を視覚的にもわかりやすくして対応しました。このできごとは、在学中に学んだ知識を活かし、仲間と協力して問題を解決した貴重な経験です。

そして今年度は、4年間の学びを卒業研究として集大成しました。一度は挫折しそうにな

ったこともありましたが、先生や先輩、家族や友人にさまざまな面で支えられ、卒業論文を書き上げることができました。この卒業論文の執筆は、支えてくれた人たちの大切さを改めて私に教えてくれました。

これから、私たちはそれぞれの道を歩み始めます。それがどのような道であってもこれまで神奈川大学で学んだことや過ごした時間、そして多くの出会いは私たちにとってかけがえのない財産となるでしょう。神奈川大学で得たものを今後の人生に活かし、それぞれの形で社会に貢献できるよう、日々邁進して参ります。

最後になりましたが、私たちがこうして無事卒業を迎えることができたのは、ご指導してくださった先生方、大学関係者の皆様、そして私たちをこれまで育ててくださった保護者の皆様のお力添えのおかげです。卒業生を代表してすべての方々に深くお礼申し上げ、答辞とさせていただきます。

2022年3月22日

卒業生代表

工学部 情報システム創成学科 小山幸保